

医療・福祉現場に衛生物資

新型コロナウイルスの感染から身を守るための衛生用品が不足している医療や介護現場に手作りの防護服などを贈る取り組みを、高知県内外の防災や福祉団体の有志が始めた。県内では防災啓発団体「高知防災プロジェクト」(山崎水紀夫代表)が参加。感染が再拡大したり、これからの季節に豪雨災害が発生したりすれば多くの物資が必要になるため、こうした物資を広く募っている。(高井美咲)

県内外の団体 支援始める 手作り防護服など提供を



高知県立大生がポリ袋で手作りした防護服(高知市内)

全国で災害支援活動を展開しているNPO法人「さくらネット」(兵庫県西宮市)代表理事の石井布紀子さん(54)が企画。「コロナ対策・届けるプロジェクト」と名付けた。石井さんによると、医療や福祉、介護の施設では衛生用品が不足しているため、ポリ袋で

手作りした防護服を使い回している例がある。スタッフからは「仕事で着用した服は家に持ち込みたくない」という声も高まっているという。

「高知防災」の山崎代表はボランティア活動を通じて石井さんと交流があり、要請を受けて企画に参加。このほか長野県社会福祉協議会の有志も連携し、それぞれが手作り防護服のほか新品の長袖Tシャツやシーツ、消毒液などを集めることになった。

手作り防護服作りには高知県

立大の防災サークル「イケア」も協力。メンバーは防護服の作り方を紹介する動画を参考にしながら、それぞれが自宅のテーブルや手指を消毒するなど感染防止対策を行った上で作業を行っている。

計200着を作る予定で、部長の山本真奈可さん(20)は「医療、福祉現場の人が大変な思いをしている。少しでも現場の人たちの不安を和らげたい」と話していた。

物資の提供は申し込みフォーム (<http://www.ikea-gensai.net/20200521>) に名前や物資の内容を記入して送信。その後、「さくらネット」からメールで案内される送付先に物資を送る。

「高知防災」の山崎代表 (060-678027・96156)

に連絡して申し込むこともできる。山崎代表は「県外の団体と連携することで現地のニーズに応じて届け先を調整することができる。災害が起きた時には避難所などに迅速に届けられるようにしたい」と話している。